

■近藤富蔵 罪を犯して流された53年間の八丈島流人生活中に、膨大「八丈実記」を著し、「八丈島の百科事典」となる。

こんどうとみぞう

青洲麻酔手術1805＝ 幕府の蝦夷地御用掛として千島や択捉島の探索に専念中の近藤重蔵の長男に生まれる。

ツツ船狼藉・1807＝2歳：この年、父重蔵は探検の功で、将軍謁見を許され、

間宮海峡発見1808＝3歳：幕府の北方対策への意識が減じたため、書物奉行へ抜擢される。現場離れに不満を持ちながらも、膨大な文献を著して行くなか育ち、

他の役職への転出を何度も働きかけるも許されずにいたことが反映してか、幼少のころから素行が悪く、

黒住教・・・1814＝9歳：

水野忠成老中1818＝13歳：

群書類従完結1819＝14歳：父は大坂弓奉行に左遷されてしまうとなかなか職につかずにいる一方、三田村鎗ヶ崎に所有してしていた広大な遊地に、富士講の信者たちに頼まれて、富士塚を造り、目黒新富士、近藤富士、東富士などと呼ばれて参詣客で賑い、門前には露店も現れる。

伊能図完成・1821＝16歳：ついに父は“勤方不相応”という理由で普請入・差控を命じられ、滝野川に蟄居。

シボ^{シボ}朴来日・1823＝18歳：

父から新富士の管理を任され、農夫の塚原半之助に頼まれて蕎麦の露店用の土地を貸したが、家賃の未払いから諍いが生じ、

・・・1826＝21歳：*塚原半之助とその妻や母親、子供計7名を殺傷し、伊豆諸島の八丈島に流罪の判決(鎗ヶ崎事件)。

日本外史・・・1827＝22歳：父も連座して近江大溝藩お預け。*八丈島へ。

シボ^{シボ}朴追放・1829＝24歳：生き別れのまま、父は近江大溝藩で死去。

鼠小僧磔・・・1832＝27歳：

大塩平八郎乱1837＝32歳：

天保改革始・1841＝36歳：

阿部正弘首座1845＝40歳：

国定忠治磔・1850＝45歳：

ペリー来航・1853＝48歳：

安政の大獄・1859＝54歳：

桜田門外変・1860＝55歳：

流人生活の間に、72巻(清書69巻)を著作。のち「八丈島の百科事典」とも呼ばれ、この地域の研究者にとって貴重な資料となっている。柳田國男は富蔵を「日本における民俗学者の草分け」と評し、井伏鱒二の「青ヶ島大概記」の種本となった。

明治維新・・・1868＝63歳：

明治6年政変1873＝68歳：

西南戦争・・・1877＝72歳：

・・・1880＝75歳：*明治政府より赦免を受け53年間の流人生活を終え、本土に戻って、親戚への挨拶回り、近江国大溝藩内円光禅寺の塔頭瑞雪院にある亡父重蔵への墓参、西国巡礼を済ませるが(巡礼の帰途、現在の和歌山県白浜町城から小川の間で倒れたが、通りがかりの者に助けられ事なきを得ている)、(戦後の小野田寛郎・横井庄一以上に)長くまた大きな変化の浦島太郎ぶりで、全く社会について行けず、

明治14年政変1881＝76歳：

新体詩抄・・・1882＝77歳：_再び八丈島に帰島し、その後一観音堂の堂守として、

帝国大学始・1886＝81歳：

国民之友始・1887＝82歳：_同島で没した。

インターネットWikipedia,